

法務大臣 殿
出入国在留管理庁長官 殿
東京出入国管理局長 殿

オブエザ・エリザベス・アルオリウォさんの在留許可を求める請願署名

請願の趣旨

ナイジェリア人仮放免者のオブエザ・エリザベス・アルオリウォさん（以下、エリザベスさんという）にこの度下された難民不認定処分について、人道的観点に基づく慎重かつ適切な再審査を行い、速やかに難民として認定すること、または特別に日本での在留を許可することを強く求めます。

2025年10月24日、エリザベスさんの二度目の難民申請は不認定とされ、在留特別許可も認められませんでした。しかし、母国に戻れば迫害を受けるおそれがあり、安全に帰国することは極めて困難です。現在、担当弁護士たちは本件不認定処分について審査請求を行っています。

また、仮放免者は就労や国民健康保険への加入が認められていないため、エリザベスさんは両膝関節症と緑内障の障害を抱えながら必要な医療を受けられず、大きな不安と困難を抱えています。

それでもエリザベスさんは、30年間にわたり日本で生活し、自らも不安定な立場にありながら、苦境にある難民や仮放免者、入管収容施設にいる人々やその家族を支え続けてきました。その行動は、人道的に高く評価されるべきものです。

2023年5月、茨城県民を中心とする支援団体 with Elizabeth（エリザベスと共に）はエリザベスさんの在留許可を求める38,030筆の署名を集め、法務大臣および出入国在留管理庁長官に提出しました。さらに同団体は、同年12月新たに茨城県牛久市の市議会にエリザベスさんの在留許可を求める請願書を提出し、同議会は内閣総理大臣、法務大臣、衆議院議長、参議院議長、出入国在留管理庁長官へ意見書を送付しています。今までのところ関係諸機関責任者からの反応はありませんが、これらの活動は、エリザベスさんが地域社会に根ざし、多くの市民から信頼されていることの確かな証です。

以上の事情を踏まえ、エリザベスさんが日本で一日も早く安心して健やかに暮らせるよう、人道的配慮に基づく適切な判断を、改めて強く求めます。

2026年1月28日

BOND（外国人労働者・難民とともに歩む会）
with Elizabeth（エリザベスと共に）

| 名前 | 住所 |
|----|----|
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

連絡先・送付先：BOND（外国人労働者・難民とともに歩む会）
169-0075 東京都新宿区高田馬場3-13-3-404

第二次締切2026年12月31日

署名の個人情報は上記の目的以外には使用しません。